

◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(男性, 30歳代)で, 型別はO157(VT2)です。本年の累積報告数は28例となっています。詳細は下記ホームページをご覧ください。
○京都市感染症情報センターホームページ「腸管出血性大腸菌感染症発生状況」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- RSウイルス感染症の定点当たり報告数が1.17(48例)で, 過去5年平均値を10週連続で上回っています。RSウイルス感染症は乳幼児を中心に流行し, 過去5年間の発生状況をみると9～12月にかけて流行しますので, 引き続き感染予防に努めましょう。

◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は5.85(240例)で, 3週連続で増加し, 過去5年の同時期と比較して最も多い報告数となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 2例(肺結核 1例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 344例(肺結核 180例, その他結核 79例, 潜在性結核感染者 85例)うち喀痰塗抹陽性 89例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 28例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

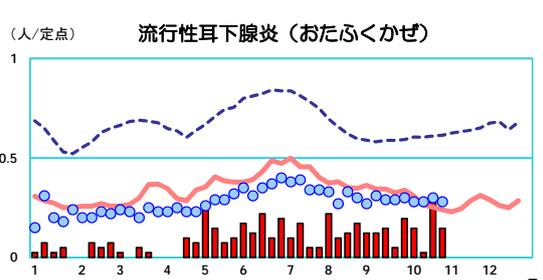
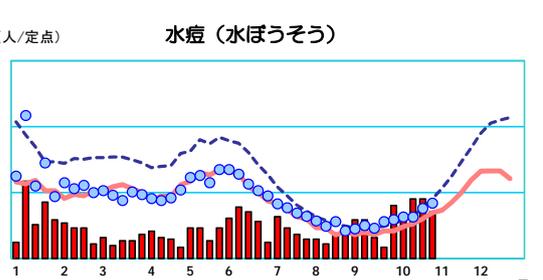
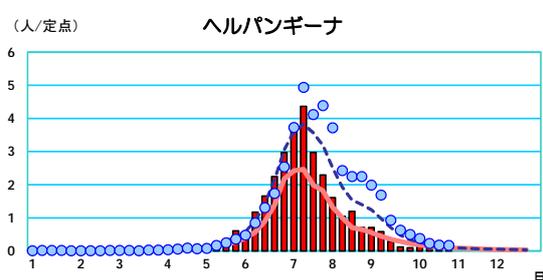
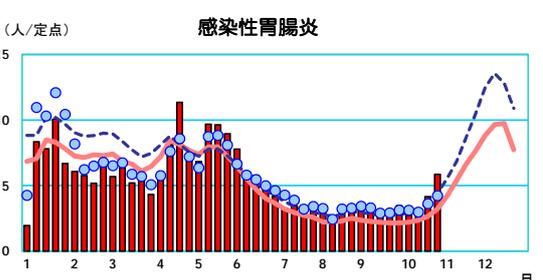
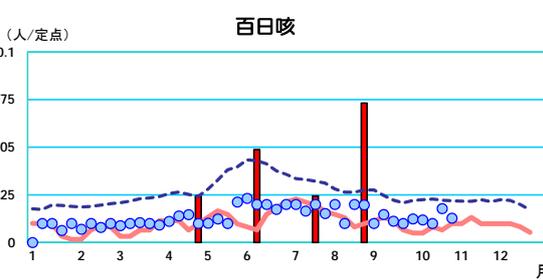
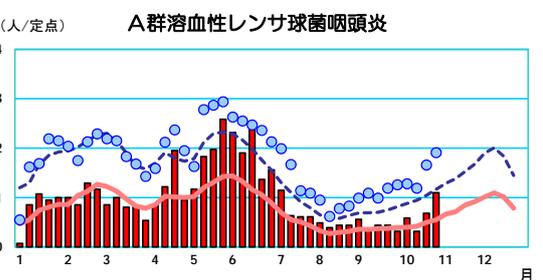
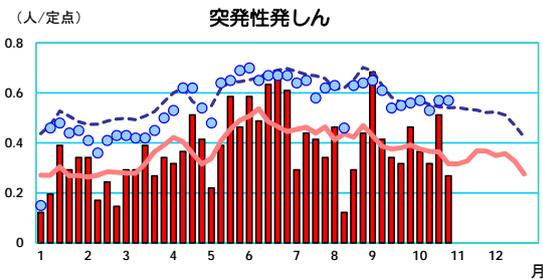
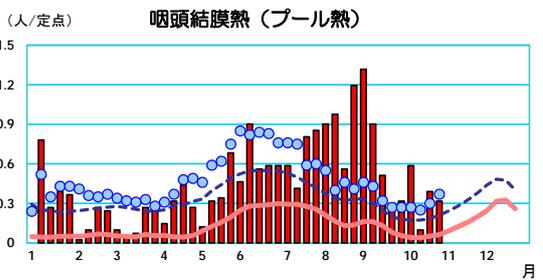
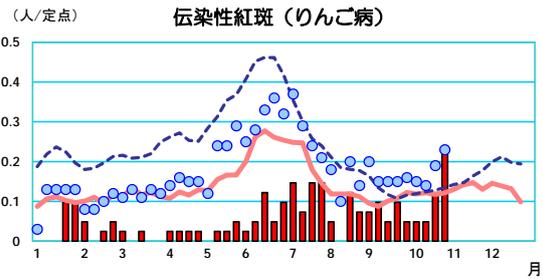
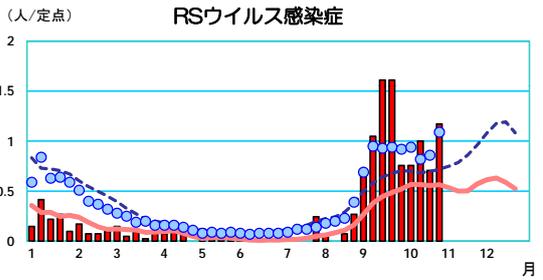
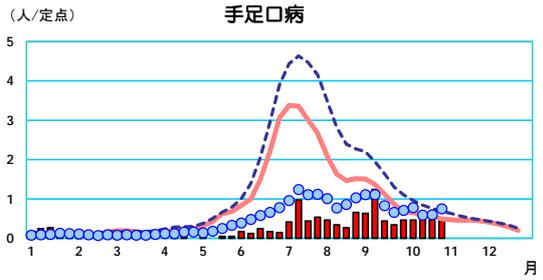
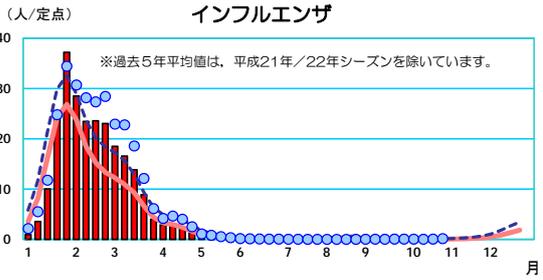
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.85	240
	② RSウイルス感染症	1.17	48
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.10	45
	④ 水痘	0.71	29
	⑤ 手足口病	0.44	18
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

(注)京都市のデータは, 平成26年11月6日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成26年）



第44週(10月27日～11月2日)トピックス: <感染性胃腸炎>

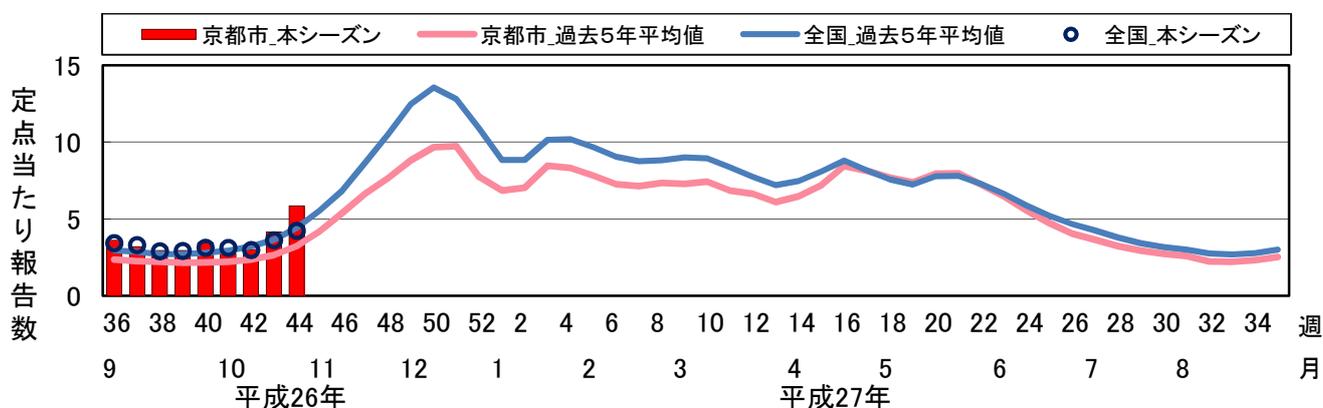
感染性胃腸炎の定点当たり報告数は5.85(240例)で、3週連続で増加し、過去5年の同時期と比較して最も多い報告数となっています。全国でも2週連続で増加しており、36の都道府県において前週より増加しています。

感染性胃腸炎は年間を通して発生していますが、例年、10月から11月にかけて増加し始めた後、急速に増加し、12月の中旬頃にピークとなる傾向があります。本年は、過去5シーズンで最も流行したH24/H25年シーズンと同様に定点当たり報告数の増加が早く、今週すでに5.00を超えています。近年の発生状況をみると、増加し始める時期が早いほど、その後の増加率が高い傾向にあり、ピーク時の定点当たり報告数も高くなっていることから、今のうちに注意してピークを高くしないことが肝心です。

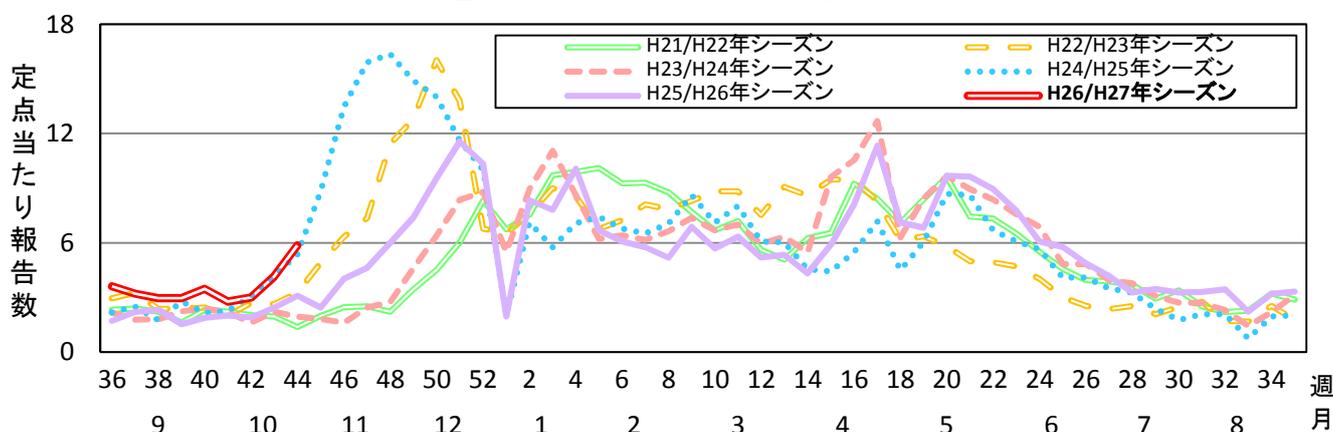
この時期に発生する感染性胃腸炎のうち、特にノロウイルスを原因とする胃腸炎は、学校や保育所、社会福祉施設など集団生活の場で大規模に流行することがあり、感染防止への注意が必要です。

ノロウイルスにはワクチンもなく、その感染を防ぐことは容易ではありません。施設内で発生する感染の規模を最小限に抑えるためにも、流水と石鹸による手洗いを徹底することが重要となります。また、吐物、オムツ等処理する際は手袋やマスクを着用し、汚染された床等は塩素系消毒剤で適切に消毒するなど、二次感染を防止してください。

京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



過去5シーズンの流行状況(京都市)



都道府県別定点当たり報告数の推移

